

学校法人 村上学園

村上学園 MURAKAMIGAKUEN

二〇二〇年(令和二年)七月三日発行
発行元(発行責任者)
学校法人村上学園 法人事務局
参事(広報担当) 寺川 誠
東大阪市西堤学園町三十一
電話 〇六六七八一二四四四
URL https://www.murakamigakuen.jp/



学園のシンボルの鹿(6/18撮影)

☆紙面案内

- 1面：入園おめでとうござい
ます(附属幼稚園)
「あんしん」のたわごと
- 2面：授業再開～新たな日常へ～
東大阪大学敬愛高等学校
東大阪大学柏原高等学校
- 3面：東大阪大学
東大阪大学短期大学部
- 4面：Murakamigakuen Art
Gallery
：編集後記

東大阪大学附属幼稚園

入園おめでとうございます

六月四日(木)東大阪大学附属幼稚園では、年少組の入園式を行いました。緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだ新型コロナウイルス感染症への懸念がある中、参列者を最小限にしたり時間短縮などの入学式の簡素化や座席間隔やマスク着用や消毒の徹底などの感染リスク回避の対応を丁寧に行い開催いたしました。四月からこの間の休業期間中

は、自宅での待機を余儀なくされていましたが、九七名の新入園生たちは、幼稚園の制服に身を包み保護者とともに入園式に出席してくれました。



今日は、先日の年中組新入園児さんの入園式に引き続き、年少組さんの入園式でした(^^) /

とってもかわいい子どもたちが、たくさん入園してくれました。今日は、保護者の方と一緒にしたのでリラックスしている子もいれば、逆にいつもと違う雰囲気緊張していた子もいたように思います。これから日々過ごしていく中で、幼稚園生活に慣れ楽しんでもらいたいと思います!!

*写真 上：幼稚園の正門で(今日から幼稚園)
中：開式前、座席間隔をあけ、密にならない工夫
下：園長先生のお祝いのことば



担任の先生の紹介です。

先生方も一日も早くこの日の来るのを楽しみにしていました。こどもたちの成長を見守っていきます。よろしくお祈りします。

式が終わっても、かわらず清々しい青空!

さっそく、遊具に触れたり飼育小屋を見学していたりと、幼稚園に興味をもってくださっていることがとても嬉しかったです!!

「村上学園NEWS 第8号」でも紹介しましたが、東大阪大学附属幼稚園では、休業期間が長期間にわたることから、保護者や園児との距離が開かないために、また再登園時のギャップを減らすため、在宅支援の情報発信に努めてきました。

在宅支援の取り組み(附属幼稚園)

本園では、幼稚園での日々の活動の様子をブログをおして発信してきましたが、休業期間中は、幼稚園の様子(キッズファーム、(絵本・クレパス遊び・線遊び・ミニこいのぼりの作り方・折り紙の折り方等々)を送付)や「各種手遊び」「みんぼりの作り方」を取り組んでまいりました。一方、本園では「働くママを応援します」とのキャッチコピーの下、様々な実践を行っています。また、年齢に応じた家庭でできる教材「8才の」を実施しました。



「あんしん」のたわごと ⑥
明治維新を拓いた幕末志士から学ぶ

東大教授「御厨貴氏」は、内側から腐り始めた「日本の危機的状況」と題して、「狂走る」ということで次のように述べています。

幕末維新は、それまでの前提をはるかに超える「異の視点」をもった志士の手によって導かれていった。彼らの裏側に共通してあったのは、死に物狂いで時代を開こうとした「狂」、その凄まじいばかりの「狂」に突き動かされ、彼らは三百年近く続いた幕府、その体制を崩し、「近代国家」(ネーションステート)の道をひらいた。

現代日本の原点にある明治維新は、志士たちの凄まじい「狂」的なまでの情熱と果敢な志がなければならなかった。と、歴史家であり、政治家である御厨貴氏は説く。

また氏は、ところが……現代日本にこうした「狂」的な精神に裏付けされた「異」の視点と強烈な行動をもつ人材のストックが底をついてしまった。もはや小手先の手練手管では壊死状態を変えていくことはできない。

今こそ、われわれは、新しい日本を拓くために、各々が独自の力で自らの役割を全うしていった坂本龍馬、西郷隆盛、大久保利通ら維新の志士たちの「狂」の視点、「狂」の行動力に学び、新しい国家像、国家戦略を構築し、果敢に行動する時が来ている。と、提言しています。

私は以上のことについて、生命をかけた生命を失った多くの志士たちが明治維新を打ち立てたことに、私のように馬鹿を重ねたものには、いたく恭敬と感動をもつものであります。そして、現在の学園の状況を考え合わせますときに、御厨貴氏の提言する凄まじい行動力が欲しいものだと思います。

私が如き無能なものが、何程のことでもできないのはよく承知しております。しかし、壮絶な幕末志士たちから露ほども学び、まずは管理職として学園発展に寄与する微々たる一人でありたいと願っています。

「異の視点」とは(歴史を開く)

新たな構造は、混乱を打開する。「異の発想」と行動力によってたらされる。貴族政治から武家政治への転換、徳川幕府の全国統一、鎖国を破って近代国家を生んだ明治維新……。

「異」とは、本質を捉えて前提を超えていく創造のためのエネルギー……。

現在の学園における大切な「異」とは……。

(故岡崎安伸先生の遺稿より)

5月21日、大阪府に発出されていた「緊急事態宣言」が解除されました。東大阪大学敬愛高等学校・東大阪大学柏原高等学校の両高等学校においては、府立学校同様、新たな日常における授業の再開に向け、清掃・消毒の徹底やマスク着用、手洗いの徹底などのコロナウィルスへの感染防止対策をとりながら、登校回数の増加や分散登校から分散授業の開始など、徐々に取り組みを進めて参りました。東大阪大学では、両高等学校より一足早く、6月

1日より、オンラインによる講義から対面による講義に切り替わっています。両高等学校では6月15日から、本格的に授業が再開され、それぞれのキャンパスには、新たな生活の一部になったマスクを着用した生徒の姿が戻ってきました。これまでのような学校生活には、まだまだ戻れませんが、制約がある中でも、元気に活動する生徒の姿は、学校という教育現場にはなくてはならないものだと、休業期間を通じて、改めて感じました。

授業再開 ～新たな日常へ～

6/10：調理製菓コースの1年生に調理実習で使う包丁が配布されました。この包丁には自分の名前が刻印されていて、卒業時には持ち帰ることができます。今日は、カバーへの記名や包丁の取り扱い方での注意点を先生から説明されました。生徒たちは包丁を手にし、「ようやく調理実習ができるんだ」といったことをいっており、調理・製菓コースに入学した実感が強くなってきているようでした。

3年生で1学期最初の調理実習をしました。3年生になると材料と分量のみ書かれたプリントが配られ、教員が実演している様子を見ながら、作り方やポイントなどを書き込み、そのレシピを見ながら料理をしています。



上：魚介のコチール
下：地中海風サラダ
右：ハッシュドビーフ
・サクランライス



本日(6/15)より六限授業が再開されました。一年生は初めて、二・三年生は久しぶりの朝から夕方までの登校でした。昼休みには友人とともに前庭で昼食をとったり、部活動も時間制限などがありますが、再開されたりと、今まで中々できなかったことができ、生徒たちはとても楽しそうに表情を輝かせていました。

～ 東大阪大学敬愛高等学校 ～



理科(生物)の授業でICT教室を使用しました。一人ひとりがiPadを利用して、生物の問題や課題に取り組みました。普段と違う授業で、少し生徒は戸惑っていましたが、徐々に使い方に慣れ、より良い学習ができました。

～ 東大阪大学柏原高等学校 ～

ようやく授業が再開です。13日までの2週間、クラスを半分に分け、時差(午前・午後)登校し、それぞれ45分授業を3時限ずつ授業を実施します。1年生は初めての授業。先生方も久々の授業でした。人数は少なく、完全再開ではないですが、生徒たちの元気な姿が多く見られました。15日からの完全再開を目指します。とりあえず大阪、そして日本全体での目標です。それぞれ気をつけてコロナと共存していく社会を目指します。

マスクを着用しての登校。上靴に履き替え、設置された消毒液で丁寧に手洗い。そして、教室へ



進学希望者は各教室で、大学のオープンキャンパスの様子を撮影した動画を見たりしました。就職希望者は教室より広い多目的教室で、コロナの影響を受けて求人募集を変更した業界や業種、変わらず求人を出している会社、などの説明を受け、自分の進路について考えました。今年の三年生の進路は、いろいろな意味で大変な年になりそうです。でも、条件はみなほぼ同じ。モチベーションを落とすことなく全力を尽くしましょう。



～ 東大阪大学・東大阪大学短期大学部 ～

毎日飲める親しみやすい「デイリービル」を目標として、クラフトビール(地ビール)の生産を続けている。取引先のヒアリングや飲食店訪問に6000円以上、新型コロナウイルスの影響で、取引先の多くが休業や時短営業に追い込まれた。このため、4月からネット販売で取引先支援のビル無料チケットのプレゼントを始めた。「新型コロナウイルスによる影響で、取引先が倒産してしまうと、取引先が倒産してしまうと、取引先が倒産してしまう」との思いから。

無料チケットで取引先支援

五月二七日、毎日新聞朝刊(左写真)に、東大阪短期大学(現東大阪大学短期大学部)を卒業され、現在「箕面ビール」社長として地ビール生産で活躍されている「大下香緒里さん」の記事が掲載されていましたので紹介いたします。

箕面ビール社長 大下香緒里さん(43) 箕面市

「飲み場はビールを通して、面ビールを飲む。『我々が来店。週末は一日も休まずに営業している状態。大手を動かして店に来たこと。一日も早い再開。また、困る。取引先は、自分たちでできることを、分けてあげたい。コロナの影響で、営業が止まる。4月のビールの製造量は、前年と比べて、半分以下。店舗も閉まる。注文も減る。』と、4月からは、ネット販売で、取引先を支援。『緊急事態宣言は解除され、1つした中、4月から、一家、外出自粛で、家飲み需要』



収束後は普段通りに

「飲み場はビールを通して、面ビールを飲む。『我々が来店。週末は一日も休まずに営業している状態。大手を動かして店に来たこと。一日も早い再開。また、困る。取引先は、自分たちでできることを、分けてあげたい。コロナの影響で、営業が止まる。4月のビールの製造量は、前年と比べて、半分以下。店舗も閉まる。注文も減る。』と、4月からは、ネット販売で、取引先を支援。『緊急事態宣言は解除され、1つした中、4月から、一家、外出自粛で、家飲み需要』



N95マスクを大阪府に寄付しました(4月23日)

本学の保健センターで、2007年製造のN95マスクが保管されていました。大阪府に寄付を申し出たところ寄付受付との連絡をいただきました。早速、新型コロナウイルスの感染拡大による医療現場でのマスク不足解消に少しでも役立てればと、N95マスク320枚を大阪府に寄付しました。



松井教授「昆虫食」の書籍とクラウドファンディングのお知らせ(1月7日)

東大阪大学短期大学部実践食物学科学科長松井欣也教授が昨年12月24日に書籍「災害時こそ昆虫食」を出版されました。また、昨年12月8日より「産学連携」の一環として、クラウドファンディングによる「昆虫食の商品開発」を行っております。

情報番組「日曜日は朝からスマイル」(サンテレビ)取材

7/5(日) 放映 (東大阪大学・東大阪大学短期大学部)



東大阪大学短期大学部実践食物学科学科(製菓衛生士コース)製菓専門実習の撮影

6月25日(木)、朝からどんよりとした梅雨空で、時折小雨がぱらつく中、サンテレビの情報番組「日曜日は朝からスマイル(アサスマ)」での東大阪大学・同短期大学部の紹介のためのテレビ撮影等の取材が行われました。

撮影は、実践食物学科学科(製菓衛生士コース)の製菓専門実習(ケーキ作り)を皮切りに、国際教養こども学科の様子やこども学科丹山ゼミのパーカッションアンサンブルの練習、介護福祉学科「生活支援技術」の様子、実践保育学科学科の附属幼稚園での保育実習等々、大学や短期大学部での講義やゼミ、学科における実習等、多岐にわたる撮影を行いました。



東大阪大学こども学部こども学科(丹山ゼミ)パーカッションアンサンブルの撮影



東大阪大学こども学部国際教養こども学科ゼミの撮影

た、今年度創部された硬式野球部の練習風景や素晴らしい戦績を残している陸上競技部等、課題活動である部活動の撮影も行われました。

なお、本学が紹介されますのは、7月5日(日)サンテレビ午前9時30分から放送される「アサスマ」の中で、7分間に編集されて放映されます。是非ご覧ください。



東大阪大学硬式野球部練習風景の撮影



閑静な文教地区、東大阪市西堤学園町にキャンパスを構える、東大阪大学・東大阪大学短期大学部は、徹底した少人数教育による、クラス・ゼミ指導を大きな特徴と学生一人ひとりとの綿密なコミュニケーションできめ細かくサポート。学生と教員の距離が近い「顔が見える大学」として注目を集めています。

少人数制クラスだからこそ可能な、教員と学生一人ひとりとの綿密なコミュニケーション。そのきめ細やかなサポートこそ、東大阪大学・東大阪大学短期大学部の魅力です。

(番組ナレーションより)

Murakamigakuen Art Gallery (8)

東大阪大学附属幼稚園児の作品を紹介します

本園では、6月8日から「2日に1日登園」が始まりました。園児たちの元気な声が園舎園庭に響き渡ります。新型コロナウイルス感染リスクへの対応を徹底した中

で、教育活動を再開しました。長い休園期間中に、家庭で取り組んでいただける課題(第8号に掲載)を提供してきました。登園再開時に持ってきてもらった課題を、年長組・年中組はこいのぼりにしました。年長組のこい

のぼりは、初夏の風を受けて、優雅に空を泳いでいます。また、年中組さんは、「こいのぼり」「てるてる坊主」「あじさい」等、季節感あふれる作品を作ってくれました。とても上手に出来上がりました。

年長組さんの作品



にじ組(年長)のこいのぼり



そら組(年長)のこいのぼり



ほし組(年長)のこいのぼり

年中組さんの作品



年中組の作品(こいのぼり)、休園期間中に各家庭で作ったミニこいのぼりが、大きなこいのぼりのお腹に張り付き、お空を泳いでいます。

年長組のみんなが作ったこいのぼりが、初夏の風を受け、空を優雅に泳いでいます。



年中組の作品(てるてる坊主)、たくさんのてるてる坊主がぶら下がっています。

年中組の作品(あじさい)



★編集後記

非常事態宣言が解除され、新型コロナウイルスとともに生活する新しい日常が始まりました。最近の大阪府の状況は、以前に比較すると非常に少ない感染者数で推移しています。学校現場ではクラスターが発生しやすい状況には変わりはなく、決して油断することなく、「三密」を避け、マスクや手洗い、消毒の徹底等、感染へのリスクの排除に注意していかねばならないと思います。授業が再開され、学園には学生や生徒たちが元気に登校してきています。教育現場では、感染リスクの対応のみならず、授業時間の確保や学校行事の精選等、早急に解決しなければならぬ様々な課題が山積している状況です。一刻も早い新型コロナウイルスの収束を願います。

さて、今号には、六月になり授業再開等、教育活動(子どもたち)が戻ってきた学園の様子をお伝えしています。東大阪大学附属幼稚園での入園式(年少組)や授業が再開された東大阪大学敬愛高等学校、東大阪大学柏原高等学校の様子、東大阪大学・同短期大学の動向(NOSマスの寄付・松井教授昆虫書籍出版・東大阪短期大学卒業生の箕面ビル社長「大下香緒里さん」の新聞記事・アサスマ取材)を記載させていただきます。

また、村上学園アートギャラリーには、東大阪大学附属幼稚園児が休園期間中、家庭で作成していた課題を仕上げた作品や登園後に作成した季節感あふれる作品を紹介しました。東大阪大学柏原高等学校美術コース生の作品については、次号以降に紹介する予定です。

これからも「村上学園NEWS」を通じて、各教育現場の様子をお伝えさせていただきます。

(編集者 寺川 誠)



<https://murakamigakuen.jp/> <https://murakamigakuen.jp/>